標本棚 私と害虫

「たった一人の研究会」

豊島区池袋保健所
矢口 昇

東京都二十三区には、ねずみ衛生害虫担当職員で構成される特別区環境衛生技術研究会というものがあります。

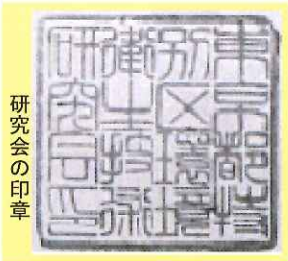
研究会には都担当職員もオブザーバーとして参加していました。

研究会は、ねずみや衛生害虫に特化していましたが、研修や研究発表、施設見学など技術と知識の向上のため活発に活動していました。

施設見学では、より広い視野で技術を研鑽しようと選定していましたので、東京を東京湾から眺めて考えてみようという見学会もありました。

海上保安庁の広報巡視船をチャーターし、一般とは異なったコースを回った記憶があります。船上から見た夢の島はゴミを漁って飛び交うカモメがカラスよりも多かった印象が残っています。

会員は三百人以上いましたので、情報交換も活発でした。しかし会員は退職し、今では、私一人の会員兼事務局です。その証拠に研究会の印章を預かっています。


研究会の印章

結構立派です。

二〇一四年にわが国では約七十年ぶりとなるデング熱が報告されましたが、もし二十三区に会員が残っていれば、どんなに心強かったでしょうか。さしずめ蚊の対策では、研究者やPCO・薬剤・機器メーカーの方を講師やオブザーバーとしてお呼びし、対策の情報交換が盛んに行われたでしょう。

なんとか、この研究会を行政職員だけでなく民間レベルまで広げて復活させたいものです。

この印鑑、誰かもらっていただけませんか…？

猫と鼠は敵と仇？

国立感染症研究所
昆虫医科学部 客員研究員
二瓶 直子

我が家は野兎・狸の出没する多摩丘陵を切り開いて宅地化された地域にある。

緑に囲まれ、野鳥も多くハイタカ属のツミ(雀鷹)まで訪れる。自宅や道路雨水枡の泥溜めは埋められて発生源はないが、ヒトスジシマカやアカイエカ、チカイエカなどの宝庫である。

蚊だけではない。隣区画のススキ野原を宅地化したため、住処を奪われたハツカネズミの家族五匹が我が家に入り込み、私と目と目を合わせる羽目になった。

ゴキブリホイホイや、いつでも使えるようにあちこちに用意しておいた軍手をはめて捕獲し、駆除は容易だった。後日、ピアノの調律師が鍵盤の下に巣を発見した。

厄介なのはクマネズミで、町内の大手の独身寮が更地となり、近隣の住宅に住みついた。庭を駆け回り、柿の木によじ登り、一階天井裏で鼠が走り回るようになった。物置の下や天井のぞき穴周辺に置いたシートと毒エサで五頭の幼獣を捕獲した。毒エサで死んだ鼠もいるかもしれないが、調べられない。

昨秋ユリやチューリップの球根が食べられ、今度は台所の天井裏で物音がした。猫の糞が庭にあると怒る主人が、猫でも飼おうかと言い出した。

「猫と鼠は敵と仇」。昭和の童謡を母が歌ってくれたことがあった。「何の猫なんか怖くはないが、爪とお目目が無けりゃよいよいよい」。「窮鼠猫を噛む」とも言われるだけに、敵と仇かもしれない。

しかし、今の猫は果たして鼠を追いかけるのだろうか？

鼠を怖がる猫もいるという。

本当に猫は鼠の天敵なのか。

ゴキブリ異変

横浜国立大学名誉教授
青木 淳一

ゴキブリといえば、関東地方ではクロゴキブリ、ヤマトゴキブリ、チャバネゴキブリの三種が普通である。中でもヤマトは寒さに比較的強いらしく、近年はかってはゴキブリがいなかった北海道にまで進出してきている。

面白いことに、クロとヤマトは一般家庭の台所に多く、チャバネはレストラン、ホテル、オフィスなどに多く、すみ分けできているように思われる。

わが家でクロがわがもの顔に闊歩しており、スリッパを振り上げるひまもなく、素早く隙間に逃げ込んでしまう。

それでもゴキブリホイホイにはよくかかり、ゴキブリがいっぱい貼りついたホイホイをゴミ箱に投げ捨てる快感は応えられない。

ところが、今年に入ってからクロがほとんど採れなくなった。

そのかわり、チャバネがごっそりと採れる。

わが家のゴキブリ相がなぜ急変したのか、理由がわからない。

最近のわが家では、月に何回も十人以上の大勢の来客に食事を出すことが多くなった。

レストランみたいになってしまったので、チャバネが増えたのだろうか。まさか！

羽音

☆一ページ小説☆

一ぴきの蛍

女流画家 堀 桂子

「あの橋を過ぎて右に曲がるとすぐよ！」美子がハンドルを握りながら言った。

東京ではもう蛍は見られない。どこかのホテルの庭には捕獲された蛍が放されているだけだった。

自然棲息の蛍が見たいという里子を、美子が東京の郊外の奥地で蛍が出る所があるから車で連れて行くということになったのである。

M駅から車で二時間余りかかる所だが、伝え聞いて来たのであろうか、数台の車が小さな広場に駐車していた。闇の中をポーツ、ポーツと何匹もの蛍が光を放っている。

「そのうちにワーッと出てくるわよ」美子は釣り好きの夫とドライブに来て夕暮れになった時に、この蛍のすみかを知ったのである。里子は車から降りると何かに憑かれたように数百匹もいる蛍に近づいていった。川のせせらぎが聞こえて来た。「川があるから危ないわよ、気をつけてね」美子がむこうから叫んだ。せせらぎの伴奏で蛍が乱舞している。みごとに湧いて出た蛍にしばし見とれていた。

一匹の蛍が里子のブラウスにとまった。そこが天使の光のように明るくなった。遠い昔、故郷の川辺での弘との別れの夜を想った。つらい想い出だが美しかった。

弘のことは里子の親も好青年だと認めていたのだが、弘自身は、医学博士への道を志半ばにして胸をわずらい断念し、育ちも違う里子に対してある種の劣等感から身を引く形をとったのであった。

弘との苦労などいとわないと信じていたが(俺にふさわしい女を選ぶよ)と言った弘の拒絶は強烈に痛かった。里子はあきらめて親のすすめる見合いをし結婚することに覚悟を決めた。

(私、こういう人と結婚するね、仕方ないから…)(そうか…)弘との最後の会話だった。里子のスカートにとまった蛍を弘がそっと両手の中に包むと、弘の手ぢょうちんの中の蛍がポーッと儚かった。

里子には何十匹の蛍などいらなかった。ほんの一匹の蛍の想い出が里子を幸せにしていた。

会員図鑑

杉田 紀生
アペックス産業㈱業務課係長

博美化学との合併により、会員図鑑に二度目の登場。現場改善に熱心に取り組み、人並み外れた集中力で害虫の生息地を探索する。

酒をこよなく愛し、ビール、ウイスキーを楽しむ。

少年期よりプロレスが大好きで、しばしば後楽園ホールに足を運ぶ。新日本プロレスの大ファン。最も好きな選手は〝レインメーカー〟オカダ・カズチカ選手。

昭和四十年生まれ、静岡県御殿場市出身。

市川 博一
アペックス産業㈱業務課

前職の飲食店勤務時代、入居しているビルが契約している業者ではなかなか減らなかったゴキブリが、別個に依頼した業者の作業で、あっという間にゼロに。その時の印象が転職の一つのきっかけとなった。入社八年、現在ではベイト剤を握って、日々活躍。最近も素手でネズミを捕獲した逸話を持つ。趣味は釣り、サーフィン、山登り、スノーボード、サッカーなど、さまざまなスポーツが好きで、最近はゴルフも始めようかと思っている。

家族は、奥様と娘さんの三人家族。

触覚BOOK

都心の生物
博物画と観察録

中野 敬一 著
中山れいこ 編集・解説
本の泉社 1800円(税別)

半世紀のほとんどが港区居住という著者(中野敬一氏)にとって、一人遊びが好きだった幼少期、自然と親しむことは、精神構造の一部を占める重要な要素でした。

動植物を通じた自然との触れ合いは、長じて害虫防除会社の社員、大学の昆虫研究室の研究員、保健所の所員、青年海外協力隊の昆虫媒介動物対策の一員、その他、場面はいろいろ変わりましたが、一貫して変わることなく、常に経験を積み重ね、スキルアップを計ってきました。

その著者が今回「故郷・東京都港区」の昆虫や植物の博物画と共に、都市温暖化等についての考えをまとめた本書を上梓したのは、自分を育ててくれた故郷への恩返しかも知れません。

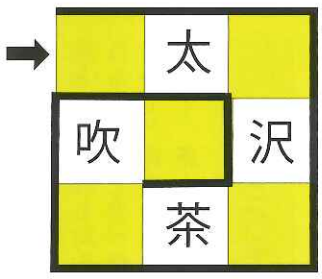
そして著者の意をくみ取り、博物画家、図鑑作家、環境教育アドバイザー、グラフィックデザイナーの肩書きを持つ中山れいこ氏が、見やすく、楽しく、美しい本に仕上げてくれました。

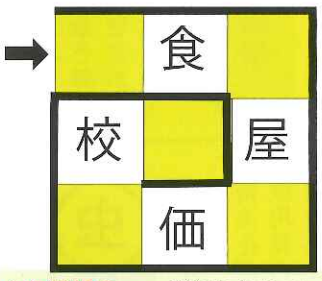
むしくいず

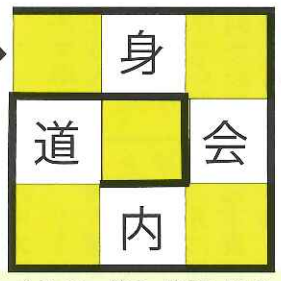
【問題】リストの漢字を使い、三つのブロックごとに、矢印の方向から太線に沿って、三字熟語のしりとりを作ってください。

最後にリストに残る文字で出来る熟語が答えです。

リスト
高等大物虫雪
防店陣社飲
皇
報花剤山生子







◆**応募規定** ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014 東京都港区芝２の23の４
アペックス産業㈱内 APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切は平成28年 8月末日(当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。

★**前号の正解と当選者**(順不同)
正解は『６と13』でした。
当選者:石川進、桑原敏子、福田希美、山地秀行の４名様です。

★お詫び★前号の「羽音」で桑原滝弥氏の肩書き「詩人」が抜けておりました。訂正し、お詫び申し上げます。